

東北森林管理局

森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

コンテナ苗低密度植栽試験現地検討会

野口研究員

和田研究員

平成28年9月6日(火)当センターと由利森林管理署共催のもと、秋田県、林業事業体等を対象にコンテナ苗低密度植栽試験現地検討会を由利本荘市四ノ沢国有林の試験地で開催しました。外部機関の参加者28名など総勢45名の参加をいただき、午前中の基調報告では、森林総合研究所東北支所野口研究員より「再生林の低コスト化に向けた植栽密度の低減—これまでの知見と今後の課題—」の説明、その後秋田県林業研究研修センター和田研究員より「秋田県におけるスギ低密度植栽試験の研究成果」の説明があり、参加者は木材価格の上昇が見込めない状況が続く中、低密度での植栽木の成長量について興味深く聞き入っていました。午後からは試験地で平成26年度から国有林で行っている低密度植栽試験の調査内容及び一部結果の報告を行い、その後、スギコンテナ苗の植栽木、競合植生などの状況を確認し、下刈省力の取組を説明しました。参加者からは「来年度、この試験地は下刈りを実施するのか」、「2年間無下刈りということ

は来年下刈りする場合、下刈りの工期が掛かるのではないか」等の質問・意見が出され、活発に意見交換が行われました。今後も引き続き低密度植栽試験地の調査データを収集し、植栽本数や無下刈りの検証等をすすめることとしています。



低コスト施業の実証現地検討会

天野グループ長



平成28年9月27日(火)当センターが主催し、宮城県、林業事業体等を対象に低コスト施業の現地検討会を宮城北部森林管理署管内気仙沼市大峠山国有林の試験地で開催しました。外部機関の参加者17名など総勢43名の参加をいただき、午前中の基調報告では、森林総合研究所東北支所天野グループ長より「一貫作業の効果と課題」と題し、一貫作業システム実証試験の解析(伐採～地拵え・植栽～下刈の工期・コスト比較)と実行上の留意点、課題について報告がありました。午後からは試験地の一貫作業箇所です今年度から実施している低コスト施業の実証試験の調査内容について説明し、その後、事業者によりフォワーダによる丸太とコンテナ大苗の運搬、コンテナ大苗の植栽のデモンストレーションを見学しました。参加者からは「枝条がなく現地がきれいだが、すべて地拵えしたのか」等の質問・意見が出されました。また、実際に現地で施業している業者からは「作業の安全確保のためにアカマツの下層にあった広葉樹がある箇所について企業努力で地拵えを実施した」等の説明があり、活発に意見交換が行われました。今後も引き続き低コスト試験地の調査データを収集し、大苗の成長量や植栽工期の検証等をすすめることとしています。

る箇所について企業努力で地拵えを実施した」等の説明があり、活発に意見交換が行われました。今後も引き続き低コスト試験地の調査データを収集し、大苗の成長量や植栽工期の検証等をすすめることとしています。

屏風山地区海岸防災林現地研修会

笠井所長



屏風山防風林の重要性、歴史的意義等について、地域住民に理解を深めていただくため、平成28年10月12日に津軽森林管理署金木支署が主催し、標記の研修会が開催され、当センター職員が講演等を行いました。

参加者は、森林ボランティア等地域住民17名を含む33名でした。午前中の座学では、当センターが「海岸防災林の役割について」と題し、海岸林の防風、飛砂防止の仕組みや屏風山の現状、機能強化・保全のための施業方法等の説明を行いました。金木支署からは「先人の知恵とヒバの耐久性を伝える木製堰堤」と題し大正5年～昭和33年に施工され、現存・機能しているヒバの木製堰堤の調査報告を行いました。午後は屏風山防風林内に防風保安林の看板を2基設置しました。



参加者は、屏風山防風林もヒバ木製堰堤も先人が長い歴史を掛けて築き上げ、国民の安全・安心な暮らしが守られていることに感嘆されているようでした。

当センターでは、屏風山防風林の保全・管理・機能強化等に資する調査、活動等を行っていく所存です。



秋も深まり、最近はずいぶん涼しくなっています。山々を歩いていると、時々、野生動物に出会います。ネズミ、ウサギ、サルなど様々ありますが、特によく見かけるのがニホンカモシカです。仕事でスギ植栽地を調査しているため、ニホンカモシカが植物を食べに来ているところに遭遇します。

ところで、このニホンカモシカですが、以前は狩猟により絶滅の危機に直面した時期もありました。しかし、特別天然記念物に指定されたことにより、

狩猟が禁止され、生息数が回復しましたが、逆に増えすぎてしまい、造林地の苗木に食害が出ています。現在、拡大造林地が主伐期を迎え、伐採して再生林をしていくうえで、今後、ニホンカモシカの対策が必要になってくるかもしれません。

余談ですが、よくスラットして細くてきれいな足の女性のことをカモシカのような脚と表現することがありますが、実際のカモシカの脚は山や岩を歩けるような強靱な足をしており、がっしりしています。なぜこのような表現になったのか、不思議です。



森をさんぽ



増田です！



森林技術専門官
増田 悠介



編集後記

「10, 222km」これは由利森林管理署(由利本荘市)、宮城北部森林管理署(気仙沼市)での森林技術・支援センター主催の現地検討会開催やその準備・打合せ、今年度の技術開発課題の各調査など9月10月の走行距離になります。

青森県の北の端から毎週のように出張していましたが、現在のところほぼ調査も終了を迎えています。これから、今年度のとりまとめや発表の準備へと取りかかります。

今月は第64号も発行予定しています。